

玉野市立学校適正規模化地域説明会（荘内中学校区） 会議録（要旨）

- 日 時 令和4年9月30日（金）19:00～20:40
- 場 所 荘内公民館
- 出席者 妹尾教育長、小崎次長、山内教育総務課長、的場学校教育課長
- 参加者 27名（地域21 保護者6）

1 開会

教育長あいさつ

2 説明

教育総務課長説明

3 意見交換

参加者1：荘内小は適正規模ではなく大規模と思うが、荘内小の適正規模化についてどう考えているか。

教総課長：確かに、荘内小学校を適正規模化するのであれば学校を分けることが必要になってくると思うが、将来的にはいわゆる適正規模の区分に入ってくる。また、児童数の増加傾向が明らかであればだが、そうではない。現状を維持しつつ、将来に向かっていけば良いと考えている。

参加者1：つまり適正でなくても維持すると。小規模だってそう考えればよいと、いま聞いて思った。

荘内小のような大規模だったらデメリットがあると思う。荘内小のデメリットはどのように考えているか。

教総課長：小規模校のメリットとして、様々な活動において一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなるというのがあるが、大規模の場合は、こういった学校行事等において係や役割分担のない子どもが現れる可能性があるといったことが考えられる。

参加者1：荘内小や荘内中の、いわゆる不登校の子ども数は分かるか。

学教課長：すぐに数は出ない。

参加者1：荘内のようにかなり学区の広いところで、学校に行けなくなった子どもたちにどう対応しているか非常に気になっている。私も長いこと教員をやってきたが、さほど大きくなかったので頻繁に家庭訪問をした。そういう余裕があったと思うが、学区が広がるとかなり難しいと思う。

大規模になるとそういうのが増えると思っている。比率も高くなると思っているが、具体的な数字がないと見えない。その辺で小規模と大規模、適正規模も含めて比べてもらいたかった。

教育は一人ひとりを大事にしないといけないと思う。学校に来ない子に対してどう対応するかが、非常に重要な部分だと思う。荘内ではその対応が十分にできているか。大規模だから聞くが分かる範囲で聞かせてほしい。

学教課長：手元にデータが無くはっきりとした数字は話すことができないが、大規模校に不登校が多い、小規模校だから少ないというものではない。家庭や地域、様々な理由

や事情で出てくるので、規模や集団の大小に比例するものではない。

荘内小学校、中学校についても不登校の児童生徒がいるが、それぞれの学校全体で、しっかり関わって対応している。だから、大規模校である荘内小学校、中学校が、小規模の学校と比べて対応が不十分かという、決してそうではない。

参加者1：一般的にそうだと私も思う。一般的に。ただ具体的な数字は分からないと言った。私の方には不登校に対してどうするかが見えない。前で言われていることも、今のことも、非常に一般的なことだと思うので、なかなか頷けないと思った。

参加者2：人口減、生徒数減、児童数減で適正規模の学校に統廃合しようという話だと思うが、アンケートを読むと、これはもう、これに答えると、適正規模にしろさいという感じに思えて仕方がない。

学校をなくした地域がこれまでもあると思うが、その全国の地域で、学校をなくして人口が維持できたり、減るのが防げたり、なくした後の人口への影響をどの程度考えているか。

教総課長：全国の状況までは正直調べていない。ただ、学校をなくしたから人口が減るのか、減っていつているから統合せざるを得なかったのか、おそらく、そういう状況の地区なので、学校をなくしたことによって、その後維持したとか、増えたとかということはないだろうと思う。

参加者2：質問が悪かった。学校を減らした影響をどの程度考えているのか聞きたかった。というのも、全国、岡山ほとんどの自治体が人口を増やそうとお金をかけていろいろやっている。これをやっていることと、今回年間5億円の金がないから学校を統合しようということを天秤にかけたときに、どの程度この5億円の方がポーンと跳ね上がって、この増やそうと思う分との差があるのかなかという質問だ。

教総課長：人口を増やすことは、日本全国、岡山県内、どこも努力をしていると思う。ただ、少子化が進んでいるので、国全体の減少傾向にはなかなか歯止めがきかない状況だと思う。人口増のためにお金を費やすのと、統合による経費の削減のバランスということだが、そこはなかなか比較ができるものではないと思う。答えにくい質問で申し訳ない。

参加者2：結局、(現状よりもかかる経費が)5億円で、20年後、児童生徒数は2,200人に減るとのことだった。それを計算すると一人当たり20万ちょっとだ。

玉野市はこれだけお金をかけていますよというアピールを出したときに、他市から、あるいは県外から、例えば来月の広報たまには「玉野に越してきて玉野で仕事を持ってよかったと思います」などと書いてあるが、学校をこれだけ頑張って維持しています、子どもにお金をかけています、そういう玉野市ですとアピールするのに、今回のこの統廃合はどうなんだろうという質問だ。

教総課長：ちょっとピンと来てなくて大変申し訳ないが、統合を進めていくと、子どもにお金をかけていることにはならないという(指摘か) ..

参加者2：例えば、いま、こども園のことを言ったが、距離的に歩いて行けない。自分が働いている頃は、ポストの数ほど保育園をとというようなスローガンもあった。そうすると働く人はそっと預けてさっが行ける。それがアンケートでは、通学距離1時間とかそんなのを○にしますかみたいな項目がある。ただ働く人間が、例えば昔東京などで言えば、2時間3時間通勤距離があってもOKみたいな、そんな記事も出た

が、子どもたちが通学する距離、それが1時間になって、スクールバスで行くから何とか可能ですなどという施策をする自治体と、そうではなくて保育園もいろんなところも目一杯最優先でお金をかけますよというアピールをするように頑張るのが教育委員会かと思っていたので質問した。

教総課長：その努力はもちろんすべきだし、そういった自治体の方が魅力的だと思う。それは言われるとおりにかと思う。

ただ、玉野市全体で見たときに予算は限られている。そこからどれだけ教育に持ってこれるかは、我々が努力するところと思うが、それにも限界はある。今の玉野市の体力で、子どもたちにできるだけ適切な教育環境を維持していくためにどうすればよいかを考えたのが、この適正規模化とご理解いただきたい。

参加者3：アンケートで学級数を問う設問があるが、児童数とか生徒数とかは決まっているか。それを少なくして先生の目が行き届くようにすれば（よいのではないか）。1学級がいいのか2学級がいいのかは私たちには分からない。

教総課長：1学級がよいか2学級がよいか、クラス替えがある環境の方がよいかどうか、理想としてどう思っているかを聞きたい。

参加者3：35人で1学級2学級なのか、20人で1学級2学級というのかで大きな（違いがある）。もう私たちは分からない。アンケートに○をつけて、1学級がいい、2学級がいいでパッと纏められても困る。20人くらいでよいとも思うし、そうすれば3学級になると思う。だからその児童数をどう考えるのかというのが。

教総課長：最後の記述式の設問でご意見をいただきたい。答えられないところは空欄でよい。

参加者3：それから、荘内小学校は東高崎の方からバス通学しているが、保護者負担はないのか。

教総課長：両備バスの路線バスを利用している。定期券を購入して乗車されているが、定期代の8割を市が負担している。2割は保護者に負担いただいている。

参加者3：学校が遠くになれば、そのように自己負担が増えるのではないか。だから広域ではなくて、先ほど言われたような若い人たちが来れるようなまちに、西粟倉か東粟倉村みたいに若い人たちが来られて、教育委員会だけではなくて、玉野市全体の横の繋がり、マイナスでなくてプラス思考で考えてほしい。

教総課長：バスについては他地区の説明会でも似たような意見をいただいている。今後市の中で話をしないといけないが、統合によって通学距離が長くなった場合は、全額市が負担すべきものと考えている。

荘内小学校はもともとそこに学校があるので、一定の負担を保護者にお願いしている。

参加者2：先ほどの話で言えば、荘内は大規模すぎるわけだから、小学校を増やすべきではないか。それを怠っておいて、遠いところから通うのに自己負担というのは通らない。統合には払うけど、分離できない学校には払わないというのは通らない。

教総課長：ご意見としていただく。

参加者4：例えば玉中と日比中は近いから自転車で通うこともできるので、個人的には有りがとも思うが、小学校はちょっと問題が違うと思う。地元で友だち同士遊べるところとか、統廃合はちょっとどうかと思う。中学校から手を付けるとか、選べるようにするとか、どうだろうか。

教総課長：選ぶというのは自分が（通う学校を選択できるようにということか）..

参加者4：例えば玉原は日比中が圧倒的に近くて平坦だ。昔から疑問に思っていたが、そのへん（学区割り）を考え直すところからするとか。

教総課長：計画そのものは玉野市全体で考えていけないと思うが、例えば中学校から着手するなどは考えられる内容だと思う。

そのあたりも、検討委員会に報告をして、協議いただきたいと思う。

参加者5：地域用のアンケートと保護者用のアンケートはまったく違うものか。

また、アンケートはいろんな人の意見を聞くことができるが、この質問にはこの意見が多いなど、人数をそのまま採用するには危険をはらんでいると思う。そのあたりアンケートの取扱いをどう考えているか。

あと、保護者のアンケートを市内の全保護者に配っていたとして、地域間の人数ばらつきによって、荘内の意見が多く反映されてしまうのではないか。そのあたりをどうするか。

教総課長：保護者用と地域用のアンケートは、基本的に同じ内容だ。ただ、保護者用には子が通う学校の学級数についてどう考えるかなどの設問を加えている。

アンケートの取扱いと人数のばらつきは同じ答えになると思うが、保護者用であれば子が通う学校名、地域用はお住まいの小中学校区を聞く設問があり、小中学校区ごと、あるいは学校ごとの集計が可能だ。そこで大規模校の傾向、小規模校の傾向、市内全体の傾向など、多角的に見たいと考えている。

参加者6：全体的には賛成が多かったとしても、反対の多い地域は後回しとか、そのままできるとかいうこともあり得るか。

教総課長：検討委員会の中で話していただく。必ず後回しになるなどの約束はできないが、アンケート結果を踏まえた議論にはなる。

参加者6：やはりアンケートよりも、人数的なものや、経費的なのが優先されるか。

教総課長：人数というのは。

参加者6：生徒数が少ないところや、そろそろ建替えが必要とか、維持費がかかりそうなどころはやはり早めになったりするか。

教総課長：我々の当面の目的は複式学級の解消にあるので、複式化が進むところから着手していくことになると思うが、その点も検討委員会で議論いただきたい。

参加者6：各学年違うレベルだと思うが、複式学級の授業はどう進めていくか。

学教課長：2学年を1人の教員で見ることになる。例えば3、4年が1つの複式学級とすれば、同じ場で、1人の教員がこちらでは3年の授業を進めながら、同時に4年生の授業を進める形になる。

参加者1：私は複式学級の出身だ。複式は担任と校長の4人くらいしか先生がいなくて本当に大変という話を（他会場で）した人がいたようだが、後閑小は、国語や算数は非常勤が入って各学年別々に勉強するようになっていく。一緒にするのは体育くらいで、先生方は本当に工夫をしてやっている。単純に先生の数が少ないから十分な教育が受けられないというのはないと思う。

学教課長：確かにいま、後閑小学校では算数と国語に非常勤の講師を充てている。2学年を1人の教員が見るのは非常に大変であるということから、市の予算をとってそのような対応をしている。それがなければ、教員の配置は2学年を1人が見る人数にな

る。だから特別に、何とか非常勤を充てているが、これが増えていくと同じ対応が難しくなる。いまでも（市の財政的に）非常に難しい中、今後もこの体制を維持できるかという、そういうものではない。

教総課長：補足をする。クラス数に応じて先生の定員が決められているが、この先生は岡山県が雇用をして、岡山県が給料を払っている。

それでは先生が足りない場合に、市で予算をとって、市が雇用して、非常勤の先生を配置している。複式の学校が増えてくると、市はそこまで手が回せなくなる。

参加者 7：少子化が進み、あるいはコロナやいじめ、不登校の関係もあって、教育のやり方を見直す研究もずいぶん進んでいると思う。

1 学級の定員は 35 人や 40 人だが、もっと少ない方が教育効果が上がるとか、感染症にも対応しやすいという研究もある。あるいは同年齢集団で勉強するより、複式の方が教育効果や人間関係、自主性が育つという研究も本で読んだ。

教育全体が変化の時を迎えていて、今までの頭で学校教育を考えてはいけないのではないか。

参加者 8：このメリットデメリットも平成 27 年のものだ。これ以降何も考えてないのか。

これをしたからこういう結果が出たとか、そういうのは一切ないのか。これを見て教育方針を考えて教育したら、何かしら結果が出てくると思うが、そのことが何も載っていない。

教総課長：小規模校のメリットデメリットにはこういう傾向があるというものを、文部科学省が取りまとめ、冊子として平成 27 年に公開した。冒頭に大規模校のデメリットという話もあったが、小規模校においても大規模校においても、このデメリットを解消するように各校で努力をしている。先ほどの非常勤の配置ももちろんそうだ。

数値としての評価は難しいが、デメリットはできるだけ小さく、メリットはできるだけ大きくするような努力を各校でしている。

参加者 8：では、平成 27 年から全然考え方は変わってないということか。

教総課長：考え方というか、小規模校や大規模校の傾向を纏めたものなので、5 年経ったからといってそれ自体何かが変わるものではないと思う。

参加者 2：玉野市の教育委員会として、これに具体的に付け加えることはなかったのかと質問を受け止めるような教育委員会であってほしいと思う。

もう一つ、玉野市の教育委員会では、本当に教育効果が上がる 1 学級の適正児童数、生徒数を何人と考えているか。

教総課長：具体的にこの人数というのは答えるのが難しい。

参加者 2：それが無いのに、適正規模から外れてこういうグラフになっていますよと市民に提示するのは失礼ではないか。

教総課長：規模が小さすぎると、いろいろなデメリットが更に強調されてくる。そうならないように一定の規模を保ちましょうというのが趣旨だ。

参加者 2：だから、1 学級の最低員数を何人として考えているか。私は 20 人いたら凄くいいクラスだと思う。脳の研究者の本に書いてあったが、5 人のグループの 4 グループ、だから 5×4 の 20 人だ。そのグループで出した答えは、5 千何人の答えよりもはるかに成績が良かったという研究結果が出ている。池谷裕二という人の本で、エコノミストという雑誌のコラム欄にあったらしいが、それをもう 1 回シャッフル

するとまた上がる。だけど、そのグループ数を5つとか6つとか増やしても効果はないというのが出ている。そうすると20人であれば、5千人くらいの規模の人と対抗しても効果は上がると読み取れる。そんな感じで、最低これだけ、これ以下は解消したいという、文科省の基準で複式を避けたいとかではなくて、玉野市の教育委員会として、1学級の規模を何名くらいで進めたいという、そういう話を聞きたい。

教総課長：この場ではご意見としていただく。

参加者9：複式学級になる上限は16人？

教総課長：2つの学年の合計が16人以下だ。

参加者9：1人の先生が2学年を見るとき、例えば九九ができないのに公倍数の勉強は絶対にできないと思うが、35人の同じ学年の生徒たちを一人の先生が見て統制を取るとあまり変わらないような気がする。

6学年全部が2学年ずつの複式になると3学級になる。その場合3人の先生しか絶対に無理なのか。

教総課長：3人プラス校長、教頭だったと思う。

参加者9：校長、教頭はもちろんいて、それで加配を付けてもらえたらいい教育ができそうな気がする。40人のクラスにサポートで入れたこともあるが、実際物理的にもロッカーまでたどり着けないくらい荷物があるし、大変さはあまり変わらないのではないか。中学生になって複式だと高校受験や大学のこともあってどうかと思うが、ぜひ小学校は統廃合しないでほしい。

教総課長：中学校の場合は、2学年の合計が16人ではなく8人で複式になる。

参加者10：荘内中学校で校長をしている。教育委員会は荘内地域の方々の意見を聞きたいのだろうと思い参加した。

複式がいい、大規模はだめ、いい、小規模はだめ、そういう安直な話ではないと思うし、地域ごとの実情を見ながら、その人たちが考えて、望ましい道を歩むべきなのだと思う。岡山市の足守地域は3小学校と足守中が合併したが、足守小学校は地域の反対により合併しなかった。その後の経緯は知らないが、そういう状況もある。議論をしていくためには、もう複式の効果がどうかではなくて、それぞれの実情を見ながらやっていかなければ、どうしようもないのだろうと思う。

本校でもいろいろ課題のある子どもに対して、規模の大きい学校だから手厚くないと言われないように、登校支援室を作って対応するなど、先生は日々一生懸命努力をしている。現在の指定校変更制度であれば、玉野市のどこに住んでいても荘内中学校に入学できるので、ぜひいろんな子どもたちが更に集まって、盛り上がっていくような魅力ある学校づくりを進めたいと思っている。

参加者11：小学生の、特に低学年の場合、やはり懸念する点に登下校の安全性があると思う。

統合で学区が広がったときに、バスで登下校できるという意見も出ているが、距離の関係でギリギリ乗れない子どもたちはものすごく朝早い時間に登校して、下校もすごく時間がかかっている。寄り道をすると全然帰ってこない。そうになると次の習い事に間に合わないので、保護者が学校付近まで迎えに行くということが起きる。そうになると、家が割と学校に近い子は親が迎えに行くほどではなく、お友達みんな

に迎えがあると、一人で帰るといことも起きていた。バスに乗っている子ども、教室に忘れ物を取りに行ったらもうバスに間に合わなくて、もう1時間バス停で子どもだけで待つという光景も実際にあるので、通学距離が長くなればバスでいいという意見は、ちょっと危険なのかなと思っている。

なので、バスの利用について、メリットデメリットや、実際にちゃんとバスに乗れているか、親が迎えに行っているのかなど、実際に今バスを利用している地区の保護者や子どもたちの声も拾ってほしい。

参加者 12:今の教育内容などは分からないが、学校がない集落は本当に衰退していくと思う。私は高齢化率の高い地域に住んでいるが、2歳と3歳の子がいる家族が引っ越してきた。するとみんな凄く活気が出てくる。地域で子どもを育てるという意味では、やはりそこに学校があることがとても大事だと思う。

小学校は、複式がいい悪いではなくて、もう少し頑張ってもらいたい。資料には令和28年まで児童生徒数を書いてあるが、そうではなくて、もう少し何か考えて。

思い入れのある地域にしないと子どもたちも帰ってこないし、過疎化が広がると思うので、その辺も十分に考えて、教育委員会だけでなく横の連携をしてほしい。子どもは地域で育つと思う。

参加者 13:私の家は学校から遠く、子はいま中学生だが(小学生の頃はバス通学をしていた)。先ほど言われたように、定期代の一部を負担してもらって、本当に少しのお金で6年間安全に通うことができた。働くことが必須だったので、バスで通学させてもらえることは大変ありがたかった。学童で18時まで預かってもらえるのも大変ありがたく、そういう形で仕事ができる。それから、バス通学は大変羨ましがられた。

参加者 14:うちは一番ぎりぎりのところでバスに乗れない。子どもは1時間かけて歩いて行くのだが、朝も凄く早い。小学1年生の時は、歩いて帰るだけでもう疲れていて、足が痛いし、学校に行くのも嫌で、何でこんなに遠いのかとなっていたが、6年間歩くとさすがにもう何も思わない。何なら20分で行けるくらいに慣れる。遠くなると最初はそういう不安があると思うが、続ければ行けるようになる。

帰りだけバスに乗れることもあって、私が仕事でいなくても友達がいるというメリットがある。ただ当番があるので、みんな乗っているかどうかの確認など、保護者の負担が必ずある。歩きでもバスでも、私はどちらもいいところと悪いところがあると思うので、それはその子の環境で仕方がないと思っている。

あと不登校の件だが、子どもが学校に行きたくないと言っていたら、小学校の方がすぐ飛んできて、説得をしてくれていた。それを私も現場で見ている、こんなに手厚くしているのだなと感じたのと、中学校の場合は、週に何回か登校することを課題にしていて、夕方で友達には会えない時間だが、そうやって学校に慣れさせるのも先生がすごく尽くされている。

先生の意識が全然向いていないとか、来ないのであれば放っておこうといった感じではないので、荘内小学校や中学校でよかったと思っている。

参加者 15:中学校の教頭をしている。子どもの頃、私は七区小学校で、19人1クラスだけの学年だった。中学校では40人1クラスで、クラス数も6、7クラスあったが、蔑ろにされた感じは全然ない。少ないから多いからというのはあまり関係ないと思

う。

教師の立場から話をすると、生徒が少ない学校は当然先生も非常に少ない。先生は新しい教育、新しいことを学ばなければならず、もちろん家でも学ぶが、研修会に参加してということがある。しかし学校が小さいと、何かあった時に対応できる人が全然おらず、研修に出にくい環境になる。人数がいれば他の先生にお願いして出られるところ、それが非常に難しくなる。ひいては、いろいろな研修で学んできたものを子どもたちに還元しにくくなるのではないか。

田舎の学校も非常に魅力的で、凄くいいなと思うところもある。私のいところは統廃合でとくに学校がなくなって、バス通学も当たり前だったが、それでもその地域はあるし、今までの魅力もずっとある。そこはそれぞれに地域で考えてもらうことだが、学校規模となると、多くの様々な生徒やいろんな考え方、多様なものに触れることも、メリットになるということを言いたい。

参加者 7：車で走っていると、新しい家がどんどん建っている地域もある。そういうところはこの人口減の計算の中で考慮されているか。また、パワーエックスという企業が来て玉野で雇用すると聞く。そうすると、人口が増える可能性があるのではないのか、そこも考慮に入っているか。

もう一つは、例えば後閑がもしなくなったとして、避難所はどうなるか。

教総課長：人口推計はここ5年間の増減の傾向を踏まえたものとなっている。荘内地区は、ここ5年間で就学年齢以下の子を持つ世帯が入ってくる傾向にあって、推計値そのものは横ばいから微増だ。グラフ上は、令和10年以降の推移にその傾向が反映されている。

次に避難所だが、学校が仮に廃校になったとしても、例えば体育館は避難所の機能として維持していくべきと考えている。その他に校舎も地域の公民館的な役割として残していけばいい。ただ、1棟だけ残す。人数によってはそこも避難所として使える。確定ではないが、そういうやり方が考えられる。

参加者 7：そこだけはちゃんと改修工事をして、水道や電気が維持され続けるということか。

いざ災害が起きたときに、全然使えない体育館を慌てて使うのは無理だ。

教総課長：使えない体育館をとということにはならないと思う。現在複数箇所か所ある避難所が1つになることはあるかもしれないが、必ず地区に1つは避難所の機能を持った建物が残っていくと思う。

参加者 16：私は技術を教えているが、現状、玉野市の中学校は技術の教員が足りていない。私は他の学校も兼務していて、この形自体が生徒にとって本当に申し訳ないと思っている。大切な3年間の技術の学びを、週1回50分だけしか会わない私が、人間関係もよく分からないままに教えている。

荘内中学校は先生がある程度の人数いて、得意なことをいろいろ持っている先生もいる。パソコン等が得意な先生がいるから学習用端末の活用が進んだり、生徒主体の活動を取り組ませるのが得意な先生がいるから、その活動がどんどん進んだりという実情もある。人数が少ないと打つ手が少なくなってしまう。

できれば各校で教員の数が確保されればと思うが、それがどうしても小規模校では実施できないということであれば、ある程度の人数を集めて、教員の数を確保して、手厚い教育を行えたらと思う。

参加者 17：今日たくさんの方が集まっていたけど、庄内地区にしては会場が小さかったと思う。

日比地区、玉地区などはほとんど来ていなくて、私は人に会う度に「説明会行ってよ」とか、「アンケートしてよ」とか言っているが、みんな知らない。八浜市民センターにアンケートを取りに行ったら無かったとか、センターの人も2枚あるはずなのに1枚しかくれなかったとか、知らない人が多すぎるのでとても心配だ。

ここはたくさんの方が来ていいと思ったし、中学校の先生が来て中学校の内実を話してくれたのはとても良かったが、他の地区では小学校教諭も、中学校教諭も、行ってはいけないと思っているのではないかと思うくらい参加していない。だから小さい学校の現状も見えてこない。

私は小学校教諭なので、中学校が専科の先生で困っている事情も知らなかった。先ほど中学校の校長先生も言っていたが、中学校と小学校をひとまとめに考えるには無理がある。誰かが言っていたが、地域ごとの問題も無理がある。鉾立の保護者は、私たちは複式大歓迎だ、複式が悪いとは一つも思っていないのになぜ市が変えようとするのか、そこが不思議でならないということ言っていた。地域ごとに考え方があり、歴史もある。八浜の友達が言っていたが、昔大崎は分校だったそう。統廃合とまでいかななくても分校ぐらいに戻して、3年生以下は大崎にしてもらえないかみたいなことも聞いた。

先ほどからいろいろな意見が出ているが、それでも市教委としては統廃合ありきで全てを進めているのか。それともアンケートや説明会で出た意見を基に、統廃合を考え直すようなゆとりを持っているか。そこを聞きたい。

先ほど誰か言っていたが、この適正規模化計画策定までの流れがあまりに早急で、会う友達ごとに、来年の8月には答申が出て、12月には案が出て、令和6年の3月から始まるよと言ったら、どうしてそんなに大事なことを市民全員に知らせられないのかとみんな言っている。

私は統廃合が賛成か反対か、まだ自分では決めかねるが、今日この会場に来て嬉しかったのは、玉野の教育のことをこんなに市民が一生懸命考えている、考え始めた人がいるかもしれないことだ。なので、適正規模化計画策定までの流れをもう少しゆっくり、そして統廃合ありきという考えではなく、もう少しゆとりを持たせて話し合いを進めてほしいがどうか。

参加者 2：関連して。庄内小学校は、建て替えの時に中学校との義務教育学校の計画があるか。

教総課長：まず、適正規模化ありきではない。ただ、適正規模化の検討に着手するタイミングに来ているとは思っている。なのでいま、検討委員会を立ち上げて諮問した。検討委員会で、まだ必要がないとか、時期尚早であるとかの結論が出れば、それに沿って進めることになる。

次に、策定までの流れが速すぎるということだが、そこについては、こういう意見をいただいたと検討委員会に報告したい。

次に、義務教育学校もありきではない。あくまで、そういったものも研究をしているという段階だ。

参加者 2：どこかに打診はしているか。

教総課長：していない。どういったメリットがあるのかなのか研究をしている。

参加者 2：校長先生が足守を例に言ったので、そういう話があるのかと思った。

参加者 10：ゆっくりとという意見もあったが、これも小中で違うと思う。中学校は待ったなしの状態であるということは、ぜひ強く言っておきたい。

全校3学級になったら教員6人という法定定数はどうしても変えられない。6人では専門性のある者を配置できないのは仕方がない。だから中学校はとにかく集めていかないと。中学生がいろんな取り組みをしながら、共に学んでいく、部活動もそうだが、ほぼできない状態になってきている学校がいくつもある。校長会でも、中学校は何とか早くという思いがあった。そういう部分でも、小中それぞれ少し分けながら考えて行くことも必要と思う。

参加者 18：荘内中の教員をしている。玉野市に友達がいるが、岡山を出ていたり、市に帰ってこなかったりという人がいっぱいいる。都市の方が仕事があるし、やりたいこともあるという話を聞く一方で、このままで大丈夫なのかという不安が凄くあって、家は絶対に建てないとみんな言っている。

私も子どもがいて、手厚い教育をとも考えたいが、やはりこの先、スクールバスのことであったり、教員確保のことであったり、もっと長期的なスパンで見たときに、財政は結構大事ではないかと思う。皆さん負担になる部分があるであろうことは重々分かったうえで、やはり私は賛成かなと思う。

私は小学校と中学校を経験した。前任校は山田小学校で6年間、いまは荘内中学校で勤務しているが、共通して保護者は学力よりも生きる力を育ててほしいとたくさんの人に言われる。もちろん小規模校では育たないとは一切思わない。自分は一生懸命育ててきたのでそうは思わないが、ある程度適正な規模があるべきというのは確かにそうなのだろうと思う。たかだか何年かしか働いていない自分だが、いまのところそう思っている。そして将来子どもたちのことを本当に思うのであれば、財政の部分のことは真剣に考えて行った方がいいと思う。

参加者 19：発達障害とかの子は8人で1クラスにしていると思うが、統廃合されたらどうなるか。実際に我が子が発達障害のクラスにいて、8人で複式学級だったが、すごく丁寧に見てもらえてとても良かったと思う。

だから1クラスの人数がというよりも、一人ひとり丁寧に見るとか、学校方針もこれまで地域に育ててもらいましょうとか、地域の行事に参加して地域とともにという話をずっと聞いていたのに、統廃合したらその地域はだんだん触れ合うことも、今でさえ地域の行事に参加することもなくなっている状態で、このまま行くとどうなるのかという不安はあるので、その辺も汲み取って、もう少し考えてもらえたらと思う。